

コンパルソリー 付柱YF105平J・120平J/ビス施工 ①

コンパルソリー 付柱 YF105平J・YF120平J/ビス施工

■設計施工時の注意

本製品は、外気温や日射による温度変化によって生じる長さ（寸法）の変化量が、木材やサイディング材と比較して大きいので以下の点にご注意ください。

- 必ずジョイントカバーセットをご使用ください。
- 本製品は、サイディング仕上げあるいはモルタル仕上げの上から施工することを基本としております。
- 本製品を取付け後にサイディングおよびモルタル仕上げを行うことは避けてください。
- 電動工具でのビス止めの場合は、低速回転で施工してください。製品表面より深くビスを打込むと表面が割れることがあります。

※外壁と本体天端の接触部分にはシーリングが必要なため、シーリング材（変成シリコン低モジュラスタイプ）をご準備ください。

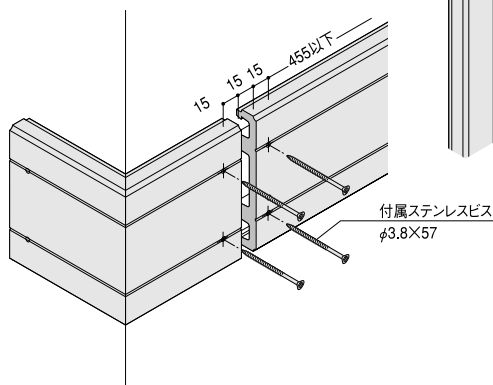
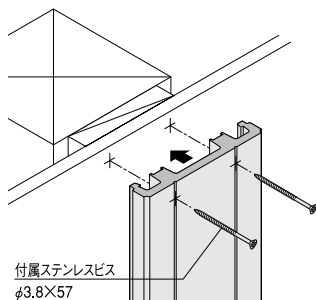
※施工後のシーリングの膨れの発生を少なくするため、素材の温度上昇がなくなる午後3時以降にシーリング作業をすることをおすすめします。

■ジョイントカバー施工要領（ビス施工）

※ 外壁と本体天端の接触部分には、シーリングが必要です。

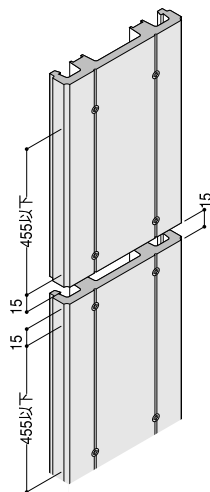
- ①サイディングあるいはモルタルに仕上げられた壁面コーナー部に下図のように垂直あるいは水平に取付けます。

※外壁下の木下地を確認の上、木下地にしっかり固定してください。



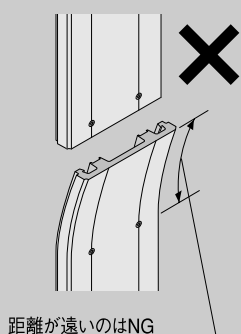
- ②本体と本体のジョイント部は、目地間隔15mmを確保します。

- ③製品エンド部のビス止めは、端部より15mmに打込んでください。また、ビス止めピッチは455mmとしてください。

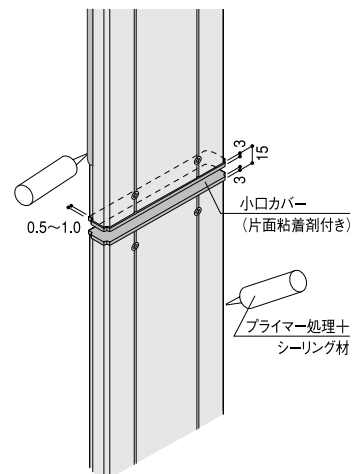


⚠ 注意

- 端部からビス打ち箇所までの距離が遠いと日射により、ソリ、くると発生します。ビス止めピッチについても指定ピッチ以上の施工は蛇行の原因になります。

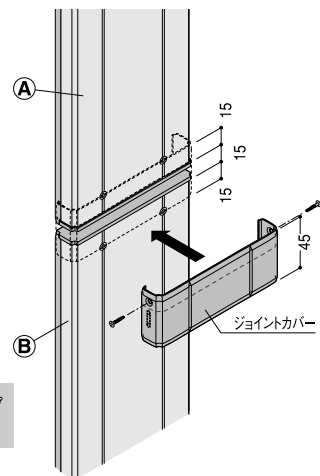


- ④ジョイントカバーセットの小口カバーをジョイント部の上下の断面に離れ紙をはがして貼付けます。小口カバーは本体表面より0.5mm～1mm程度外側に出るような状態で取付けます。



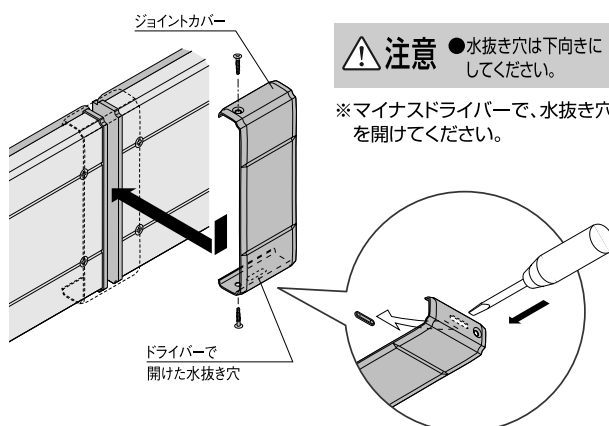
- ⑤側面（壁接触部）にプライマーをハケで塗った後、シーリング材を用いてシーリングを行います。

- ⑥ジョイントカバーセットのジョイントカバーを取付けます。ジョイントカバーの両面テープは片側のみ付いていますので、④⑤ 2本の付柱のうち④にのみ接着するようにし、同梱ビスにて2箇所しっかり固定します。（ジョイントカバーの巾は45mmありますので目地がジョイントカバーの中央にくるよう、④の付柱に15mmかぶせます。）



⚠ 注意 ●両面テープ側を上

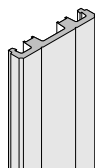
⚠ 注意 ●横方向に付柱を使用する場合は、ジョイントカバーの水抜き穴を、下図のように開けてください。



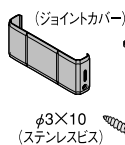
コンパルソリー 付柱YF105平J・120平J/ビス施工 ②

■構成部材

●本体



●ジョイントカバーセット

●ステンレスビス
頭部着色
(φ3.8×57)

別売部材

●コンパルソリー
シーラント
(色/ブラック)●タッチペイント
(ビス頭補修用)

●出隅



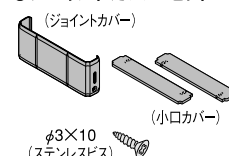
●入隅



●エンドキャップ

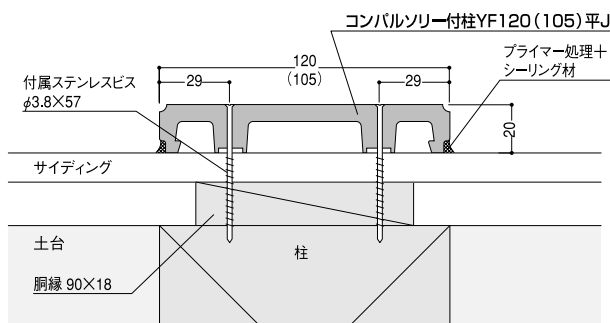


●ジョイントカバーセット



■参考納まり図(ビス施工)

※ビス止め部は以下のように木下地を確保してください。



※() 寸法は、YF105平J時の寸法を示します。

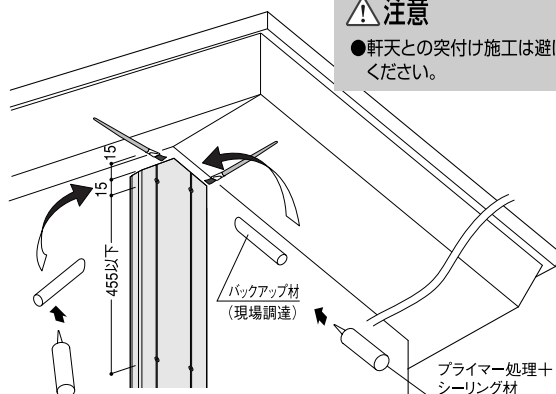
※軒天部との取合い及び外壁との接触部分にはシーリングが必要なため、コンパルソリーシーラントをご準備ください。

■軒天部との取合い(ビス施工)

●軒天部との取合いは、左図のように15mmの目地をとりプライマー処理後シーリング処理を行ってください。
(本体切断角度は軒天勾配に合わせてください。)

⚠ 注意

●軒天との突付け施工は避けてください。



■参考納まり図(ビス施工)ー付柱(平) どのの縦・横の納まり例

⚠ 注意 ●ビス止め部は以下のように木下地を確保してください。

※横使い付柱の端に別売エンドキャップを施し、目透し巾5mmで納めてください。
(エンドキャップは、コニシ(株)製「雨どいボンド」にて接着ください。)

